

# 中学校 音楽科 部会

部会長名 川崎町立鷹峰中学校 校長 河野 康世

実践者名 福智町立金田中学校 講師 田端 幸彦

## 1 研究主題

「思考力・判断力・表現力を育む音楽科学習指導の工夫」

～主体的な学びにつながる交流活動を通して～

## 2 主題設定の理由

- 音楽科においては、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図を持って表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活との関わりに関心を持って、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むこと等に重点を置いて、その充実を図ってきた。
- 一方で、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと、生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくことについては、更なる充実が求められるところである。
- 今回の学習指導要領の改訂においては、これまでの成果を踏まえ、これらの課題に適切に対応できるよう改善を図っていくことが必要であるため、田川郡音楽部会として本主題を設定した。

## 3 主題の意味

- 音楽科の思考力・判断力・表現力とは、音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする力である。（2，3年生は、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。）
- 音楽科の主体的な学びとは、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養うことである。（2，3年生は、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養うことである。）
- 音楽科の交流活動とは、音楽科学習指導要領（H20）に示されている[共通事項]を音楽的根拠として、自分の考えを持ち、それを仲間と交流しあい、まとめていく活動を行い、同じ目標の達成に向け取り組んでいくことである。

#### 4 研究の目標

本研究の目的は、音楽表現をより豊かにするために、どのようにしたら思考力・判断力・表現力が高まるのかを明らかにすることである。そのために交流活動を通して主体的な学びにつながる方策を見いだすことをねらっていく。

#### 5 研究仮説

表現領域において、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を甘受させるための適切な支援を行ったり、グループや全体での交流を通して、自分の考えを伝えたり、自分の考えと友だちの考えを比べさせ違った考えに触れたりする活動を行えば、生徒は自分の考えをさらに進化させ思考、判断し、思いを音楽的根拠に基づいて表現できる力が高まるだろう。また、自分たちで考え、工夫し、表現をつくりあげていく経験を重ねることが、自分たちの力で更にもっと豊かな表現をしていきたいという主体的な学びにつながるであろう。

#### 6 研究の計画（本年度の授業研究の計画）

(1) 題材名 「合唱の喜び」 題材 混声三部合唱 「COSMOS」

##### (2) 題材の目標及び指導計画

① 歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとする。

(音楽への関心・意欲・態度)

② 歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。

(音楽表現の創意工夫)

③ 歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌うことができる

(音楽表現の技能)

##### 学習指導計画（総時数 4 時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
第1次	1	○COSMOS のイメージを共有し、パート別に音とり練習をする。	・楽譜を見ることを習慣づけるため、歌詞だけでなく楽譜を見るように促す。	◆様相観察・自己評価シートへの記述 【音楽への関心・意欲・態度】
第2次	1	○歌詞に込められた思いを読み取り、表現の工夫を考える。	・歌詞に込められた思いを探るため、歌詞を朗読させる。	◆様相観察・ワークシートへの記述 【表現の創意工夫】
	1	○楽譜上の音楽記号に注意し、強弱などの具体的な	・強弱を見落とさないよう、強弱記号に印を付	◆様相観察 【表現の創意工夫】

		表現の工夫について考える。	けさせる。	
第 3 次	時) 4 / 4 (本	○合唱を客観的に聴き、さらに工夫できる点を見つける。	・自分達の演奏を客観的に聴かせるため、録音した自分達の合唱を聴かせる。	◆様相観察 ◆ワークシートへの記述 【表現の技能】

## 7 指導の実際

### (1) 本時の指導観

導入では、自分達の合唱を客観的に聴いて課題を見つけることができるよう、前時まで録音しておいた全体での合唱を聴き、気づいたことを交流させる。その際、全体で出た意見は、板書で残しておきパート練習や授業のまとめの合唱の際に確認することができるようにする。展開では、パートごとに課題を見つけることができるよう、パート別に録音した音源を聴く。そして、パートで気づいたことや表現の工夫について話し合いを行う。その後の練習で、何に気をつけて歌唱するのかが分かりやすいよう、ホワイトボードに記入させる。話し合ったことを元に、課題を解決することができるよう範唱 CD やカラピアノの CD を使ってパートで練習をさせる。また、必要に応じてキーボードなども準備しておく。最後に、全体で合唱を行いパート練習の成果を全体で共有することができるよう、録音する。その際に、パートで練習した箇所がわかるよう、ホワイトボードを前の黒板に掲示する。まとめとして、全体合唱の録音を聴き、初めに聴いた録音と比べて良くなった所をワークシートに記入させる。他の楽曲でも生かせるようどのような点に気を付けて歌うと良かったのかも記述させる。

### (2) 本時の主眼

事前に録音した自分達の合唱と範唱 CD を比較聴取し課題を見つける活動を通して、一人一人が思いや意図をもって表現することができる。

### (3) 準備

①練習用 CD ②楽譜 ③ワークシート ④CD プレーヤー

(4) 展開

段階	学習内容・活動	学習形態	指導上の留意点	評価規準・評価方法	配時
導入	<p>1 前時に録音しておいた自分達の合唱と範唱CDを聴き比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パートのバランスが悪い</li> <li>・強弱が表現できていない</li> <li>・ソプラノの音程が悪い</li> </ul>	全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着目する点に分かりやすくなるよう、聴く時のポイントを挙げておく。</li> <li>・授業の最後に振り返りができるように、板書で感想を残しておく。</li> </ul>		12
	<p>【めあて】</p> <p>パートごとの表現の工夫を考えて歌おう。</p>				
展開	<p>2 パートごとに分かれて、パートごとに録音した合唱と範唱CDを聴き比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Bの部分の音程が悪い</li> <li>・言葉がはっきり聞こえない</li> <li>・フォルテの部分が弱い</li> </ul>	班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じっくりと考えることができるよう、A～Dと部分を絞って考えさせる。</li> <li>・課題をパートで共有できるように、ホワイトボードに気づいたことを書き出す。</li> <li>・これからの練習にも生かすことができるよう、自分の楽譜にも、課題を記入させる。</li> </ul>		13
	<p>3 見つかった課題や改善点をもとにパート練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音程</li> <li>・強弱</li> <li>・歌詞の発音</li> <li>・パートのバランス</li> </ul>	班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な練習方法を取れるよう、範唱CDやカラピアノのCDで練習させる。また、必要に応じてキーボードを使用させる。</li> </ul>		15
	<p>4 全体で、合唱をする。</p>	全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後で、練習の成果を確認することができるよう録音しておく。</li> <li>・パートでどのような点に気づけて練習したかが分かるよう、ホワイトボードを黒板に掲示する。</li> </ul>	<p>◆考えた音楽表現を合唱の場面で実際に表現しようとしている。(様相観察)</p> <p>【音楽への関心・意欲・態度】</p> <p>◆歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現で歌うことができる。(様相観察)</p> <p>【表現の技能】</p>	5

ま と め	5	パート練習後の合唱の録音を聴き、良くなった点をワークシートに記述する。	個	・今後の練習に繋げるため、どのような点に注意して歌うと良くなったかも記入させる。	5
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【まとめ】</p> <p>強弱やパートのバランスを工夫することでより良い合唱に繋がる ことがわかった</p> </div>			・次時の連絡をする。	

## 8 研究のまとめ

本題材において、思考力・判断力・表現力を育むために次のような交流活動の手立てをとった。

- 歌詞の朗読や曲から受ける印象を発表し合い、歌詞に込められた作者の思いについて考えさせる。
- 現時点での合唱が聴き手に思いが伝わるような合唱になっているのか自分たちの歌声を録音し、客観的に聴くことで課題について確認させる。
- パートリーダーを中心にリーダーの指示の元、パート練習を繰り返し行わせる。
- 個人で考えた工夫をワークシートに書かせた後、各パートで交流し工夫をまとめさせる。
- グループや全体での交流を行い、友だちの考えと自分の考えを比較し、新たな考えを知ることによって、自分の考えをより深化させ表現の創意工夫につなげていく。

## 9 成果と今後の課題

### <成果>

- 話し合い活動を行う前に、個々の考えをまとめる時間をとったことでパート内での話し合い活動が円滑に行われ、さまざまな表現に関する意見が出された。
- 音楽に関する用語や記号などについての理解を深めるワークシートを配布し、音楽記号を理解した上での表現の工夫を考えることができる生徒が増え、効果的であったと思われる。また、用語や記号を使った仲間の意見を聞くことで、自分の「言葉での表現」が「用語や記号ではどう表せるのか」と考えるきっかけとなり、記号の理解と表現の幅の広がりにつながった。
- パートリーダーを中心に自分たちで何度も話し合い、表現の工夫を考え、合唱を創りあげていく活動を通して、より一層表現活動への意欲が高まり、主体的に活動する場面が多く見られるようになった。

<課題>

- 話し合い活動に時間がかかり実際に歌う活動の時間が少ないことがあった。話し合い活動が主にならないよう、学習プリントや取組の方法をさらに工夫していく必要がある。
- 楽譜を拡大するなどして全員で気をつけるべき箇所や、工夫すべき箇所を視覚的にも共有することで、より一層の表現の工夫を共有できるのではないか。
- 自分たちで考えたイメージを表現するために、音取りなどの技能向上の時間を増やし、より変化が表れるまでの技能を身に付けておく必要がある。

◎参考文献

- ・ 文部科学省 「中学校学習指導要領解説 音楽編」 平成20年 教育芸術社
- ・ 文部科学省 「中学校学習指導要領解説 音楽編」 平成29年6月 文部科学省